

習得した知識を活用して社会への関わり方を 選択・判断できる児童の育成

—— 学習過程どうしをつなぎ、
単元の学習問題の答えを基にした問いを作るための
OPPシートを活用して ——

長期研修員 関 真克

《研究の概要》

本研究は、小学校社会科の学習において、学習過程どうしをつなぎ、単元の学習問題の答えを基にした問いを作るためのOPPシートを活用することで、習得した知識を活用して社会への関わり方を選択・判断できる児童の育成を目指したものである。

具体的には、児童はOPPシートに単元の学習問題、各時間の「めあて」、問題解決的な学習から得た「まとめ」「振り返り」「気付いたこと」を記述する。そして、OPPシートを手がかりに、「まとめ」の中に書かれたキーワードを活用し、単元の学習問題の答えを作る。さらに、単元の学習問題の答えを基に、自分にできることについて「問い」と「答え」を作る。

以上の学習活動を通して、習得した知識を活用して社会への関わり方を選択・判断できる児童の育成を目指すものである。

キーワード 【社会—小 習得した知識 選択・判断 学習過程 つなぐ 単元の学習問題 OPPシート】

I 主題設定の理由

中央教育審議会答申（平成28年12月21日）において示された事項を「社会科、地理歴史科、公民科の改善の基本方針及び具体的な改善事項」としてまとめると、「社会科、地理歴史科、公民科では、社会との関わりを意識して課題を追究したり解決したりする活動を充実し、知識や思考力等を基盤として社会の在り方や人間としての生き方について選択・判断する力、自国の動向とグローバルな動向を横断的・相互的に捉えて現代的な諸課題を歴史的に考察する力、持続可能な社会づくりの観点から地球規模の諸課題や地域課題を解決しようとする態度など、国家及び社会の形成者として必要な資質・能力を育てていくことが求められる。（i）社会科、地理歴史科、公民科の改善の基本方針」と、小学校学習指導要領解説社会編（平成29年7月）にあり、社会への関わり方を選択・判断する力を育むことの必要性を挙げている。

また、「社会への関わり方を選択・判断する」とは、「社会的事象の仕組みや働きを学んだ上で、習得した知識などの中から自分たちに協力できることなどを選び出し、自分の意見や考えとして決めるなどして、判断すること」とある。また、児童が社会への関わり方を選択・判断するためには、知識が習得された上で、自分たちにできることを選択することの必要性を示している。

群馬県では、第3期教育振興基本計画が策定され、「基本施策2 確かな学力の育成」において、取組9では、「身に付けた知識・技能を活用し課題解決を図る力の育成」とある。このことから、問題解決的な学習を通して、知識を習得した上で社会への関わり方を選択・判断する児童を育成することは重要だと考えられる。

そこで、これらの児童を育成するための本研究の手立てとして「一枚ポートフォリオ（OPP：One Page Portfolio、以下OPPシートと表記）」を活用する。OPPシートには、1枚紙に単元の学習問題・各時間のめあて・まとめ・振り返り・気付いたことを記述する。そうすることで、学習過程どうしのつながりを視覚的に捉えやすく、前時と本時とのつながりを児童が意識でき、習得した知識を活用することにつながると考える。また、各時間の振り返りも一目で確認できるので、自分の学びを自覚しやすいと思われる。その上で自分にできる事は何かを、自分に問いかけながら考えれば、今の時点での社会への関わり方を選択・判断できるようになると考える。

これらの学習活動が、習得した知識を活用して社会への関わり方を選択・判断できる児童の育成につながると考え、本主題を設定した。

II 研究のねらい

社会科の指導において、習得した知識を活用して社会への関わり方を選択・判断できる児童を育成するために、私たちの生活に身近な内容を対象にした単元で、学習過程どうしをつなぎ、単元の学習問題の答えを基にした問いを作るためのOPPシートを活用することの有効性を明らかにする。

III 研究仮説（研究の見通し）

学習過程どうしをつなぎ、学習問題の答えを基にした問いを作るためのOPPシートを活用すれば、児童は、習得した知識を活用して社会への関わり方を選択・判断できると考え、以下の仮説を立てる。

- 1 追究する過程において、OPPシートで、各時間の「まとめ」に含めたキーワードを一目で確認できるようにすれば、まとめる過程で、学習過程どうしをつなぎ、単元の学習問題の答えを作る上で有効であろう。
- 2 生かす過程において、OPPシートで、各単位時間で習得した知識のつながりを視覚的に確認できるようにすれば、学習過程どうしをつなぎ、単元の学習問題の答えを基にした問いを作る上で有効

であろう。

- 3 生かす過程において、OPPシートを基に学習問題の答えを基にした問いを作り、自分にできることを決めれば、習得した知識を活用して、社会への関わり方を選択・判断できる児童を育成する上で有効であろう。

IV 研究の内容

1 基本的な考え方

(1) 文言の定義

① 「習得した知識」とは

授業を各単位時間だけの独立した学習として捉えず、前時と本時とのつながりが意識された知識や単元を通して児童が身に付けた、実生活などの広い場面で生かせる知識と考える。

② 「社会への関わり方を選択・判断できる児童」とは

自分の学びを自覚した上で、今の時点で自分にできることを自分に問いかけながら考えられる児童と考える。なお、学習指導要領で各学年の「内容の取り扱い」に「選択・判断」が示されている箇所を表1に示した。特に今回の研究では、5学年(5)ウ国土の環境保全を取り上げる。

表1 「選択・判断」が示されている箇所

学年	内容の取り扱い	学習内容	学年	内容の取り扱い	学習内容
3年	(3)イ	地域や自分自身の安全	4年	(3)ウ	地域の伝統や文化の保存や継承
4年	(1)エ	節水や節電	5年	(5)ウ	国土の環境保全
	(1)オ	ごみの減量・水を汚さない工夫	6年	(3)エ	世界の人々と共に生きていくために
	(2)ウ	災害への備え		(3)エ	我が国の国際社会における役割

③ 「学習過程どうしをつなぐ」とは

本研究における学習過程とは、つかむ・追究する・まとめる・生かすの四つの学習過程である。特に生かす過程では、つかむ・追究する・まとめるの三つの過程によって児童が習得した知識を活用し、選択・判断するための過程として設定した。これらの学習過程をつなぐのは、単元の学習問題と追究する過程のまとめで児童が発見したキーワードだと考える。学習過程どうしをつなぐ学習活動とは、各単位時間に単元の学習問題が意識され、まとめる・生かす過程でキーワードが活用されていることだと考える。

④ 「単元の学習問題」とは

はばたく群馬の指導プランⅡにおいて使用されている単元の課題と同意である。研究協力校において使用している教科書では、単元の課題を単元の学習問題と表記している。そのため、本研究においても、教科書の表記に揃え、単元の学習問題という文言を使用する。

⑤ 「単元の学習問題の答えを基にした問い」とは

つかむ過程で作られた単元の学習問題は、追究する過程を経て、まとめる過程で答えが出される。この答えは、本単元の学習のみで完結する答えではなく、児童の普段の生活において生かすことができる知識となる。この答え(知識)を基に「自分にできることは何か」という視点をもって見いだす疑問のことを単元の学習問題の答えを基にした問いと定義する。

⑥ 「OPPシート」とは

「一枚ポートフォリオ(OPP: One Page Portfolio、以下OPPシート)」のこと(図1)。本研究におけるOPPシートは、児童が社会への関わり方について選択・判断するために活用するシートである。児童は、各単位時間で習得した知識のつながりを視覚的に確認できる。繰り返し確認しながら、知識の定着化を図った上で「自分にできることは何か」という視点もてる。

児童は、A3サイズの1枚紙に単元の学習問題と「**☒**あて」、「**☑**付いたこと」、「**☒**とめ」、「**☒**り返し」を記述して使用する。(囲み文字は、OPPシートに対応)



図1 OPPシート

の関係性や、気づき・めあて・まとめを確認する際に、OPPシートは、ページをめくる必要がないため、視覚的に理解しやすい。以下、表2にOPPシートとノートの違いをまとめた。

表2 OPPシートとノートの違い

	OPPシート	ノート(ワークシート)
量	1枚	複数枚
スペース	狭い(有限)	広い(ほぼ無限)
単元全体の学習の見通し	もちやすい (コマ数が振られている)	もちにくい (次ページは白紙)
振り返り	しやすい	ページをめくる手間
自由度	少ない	多い
複数人での共有	しやすい	しにくい
教師による評価	しやすい	しにくい

(2) 手立ての説明

① OPPシートを使用する場面

本研究では、児童がOPPシートに、めあて・まとめ・振り返りを記述するのは、教師が指示した場面とし、教師や友達の発言などから気付いたことは随時記述する。なお、振り返りを記述する際は、自分の学習の取組の様子について振り返るために、本時のめあてに対して、どのように学習したかを記述する。

② OPPシートはノートと併用

ノートとOPPシートの違いは、OPPシートの「扱いやすさ」にある。

単元の学習問題と各時間のめあて

表2に示したことを考慮して、授業においては、ノートや必要に応じてワークシートも併用して使用する。児童がノートとOPPシートを使い分けられるように、OPPシートに記述する項目(単元の学習問題と各時間のめあて・気づき・まとめ・振り返り)を明記した画用紙を黒板の横に掲示しておく。

③ OPPシートを活用して単元構想をする

ア 複数のキーワードを含めた単元の学習問題の答えを決める。

単元を通して児童に身に付けさせたい知識を単元の学習問題の答えとし、複数のキーワードを含めて文章化しておく。各キーワードは、学習指導要領や教科書の文言を基に考え、必要に応じて児童が実生活で使用する平易な言葉に置き換える。

イ 各キーワードについて学習する時間を追究する過程の中に設定する。

単元の学習問題の答えと関わりがある単位時間の「めあて」を明確にし、授業を構成する際に必要な資料や手立てが準備しやすくなるように、各キーワードをいつ学習するかを追究する過程の中に設定しておく。

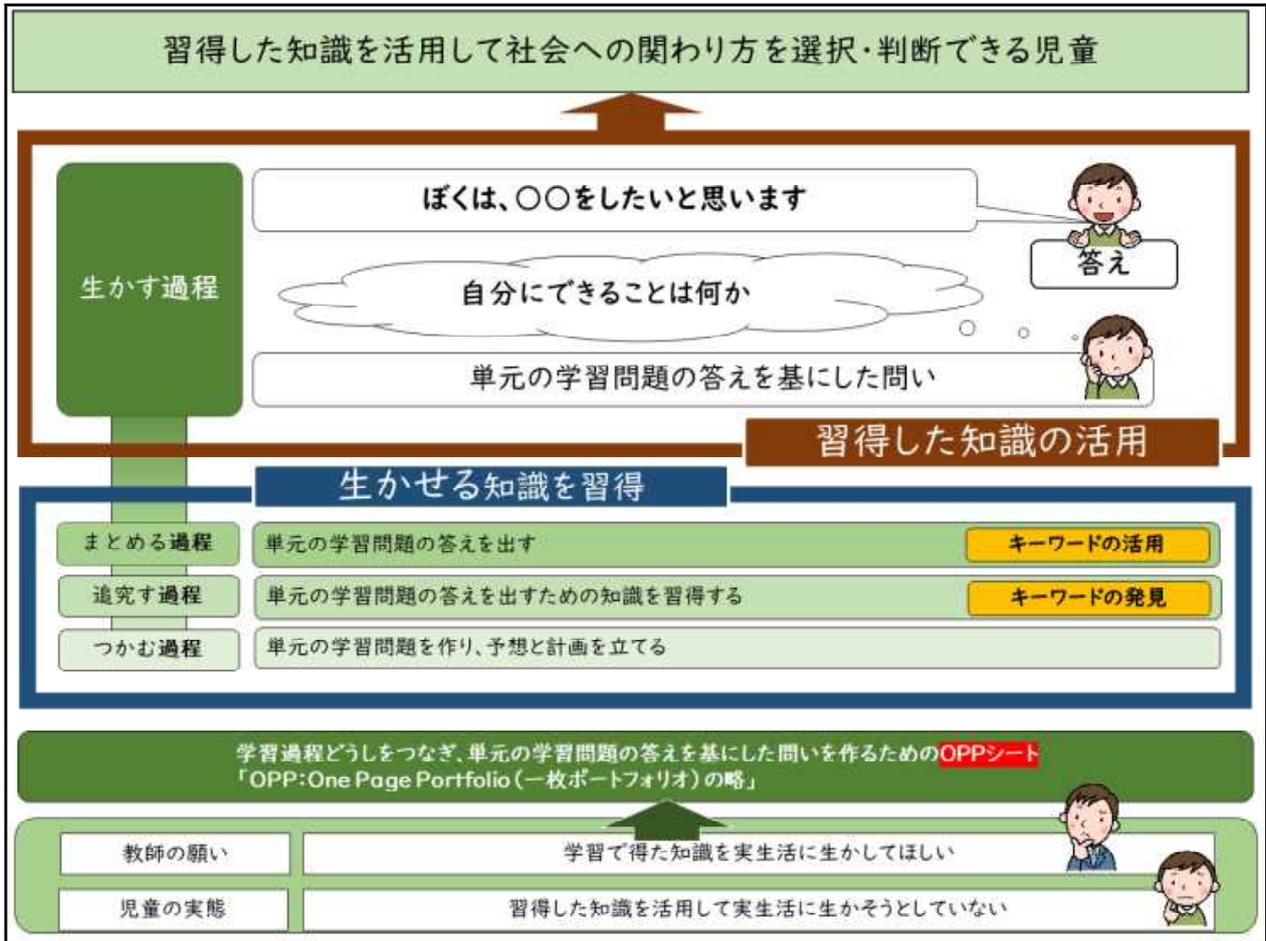
ウ 児童が作る単元の学習問題を想定する。

つかむ過程において、児童が学習問題を作る際は、教師が意図した驚きや疑問が児童から出るような資料や図・グラフを用意しておき、児童の多様な驚きや疑問を教師が決めた単元の学習問題の答えにつながるように、単元の学習問題を想定しておく。

エ 選択・判断が位置付いた場合には、単元の学習問題と児童の生活に関わることを紹介する。

単元の学習問題と関わりがあり、児童にとって身近で、強く印象に残るような取組には、どのようなものがあるのかを教師が調べ、準備しておく。その中から追究する過程の適切な単位時間内において、児童が習得した知識を活用して、自分にできることを選択できるように、写真や動画、表やグラフなどを紹介する。

3 研究構想図



V 研究の計画と方法

1 授業実践の概要

(1) 授業実践

対象	研究協力校 第5学年 29名
実践期間	令和元年 10月21日～11月1日 7時間
単元名	わたしたちの生活と森林
単元の目標	<p>○日本の森林資源の働きや育成や保護の取組の様子に関心をもって調べ、国土に広がる森林が国土の安全を保つことや水資源の涵養等に重要な役割を果たしていることや、森林の育成や保護に取り組む人々の工夫や努力を理解するとともに、環境保全のための国民一人一人の協力の必要性について考えようとする。</p> <p>○我が国の森林資源の働きや、育成や保護の取組の様子から学習問題を見出して、観察・調査したり地図や統計、写真などの資料を活用したりして必要な情報を集め、読み取ったことを文章や作品にまとめるとともに、森林資源と国民生活との関わりについて思考・判断したことを適切に表現する。</p>

2 検証計画

検証項目	検証の観点	検証の方法
見通し1	○追究する過程において、各時間の「まとめ」に含めたキーワードを、OPPシートで一目で確認できるようにしたことは、まとめる過程で、学習過程どうしをつなぎ、単元の学習問題の答えを作る上で有効だったか。	○OPPシートの分析 ○事前・事後アンケートの分析
見通し2	○生かす過程において、OPPシートは、学習過程どうしをつなぎ、学習問題の答えを	○ノートの記述の分

	基にした問いを作る際に、有効だったか。	析
見通し 3	○生かす過程において、OPPシートを基に学習問題の答えを基にした問いを作り、自分でできることを決めたことは、習得した知識を活用して、社会への関わり方を選択・判断できる児童を育成する上で有効だったか。	○学習活動の観察 ○児童の発言の分析

3 抽出児童

A	社会科の学習は「どちらかというと好き」と感じている。一方、社会科で学習したことを実生活に「ほとんど生かしていない」と感じている。OPPシートを活用して視覚的に既習の内容をつなぎ、単元の学習問題の答えを基にした問いと答えを作ることで、自身の知識を実生活に生かせるようにつなげたい。
B	社会科の学習は「どちらかというと好き」と感じている。一方、社会科で学習した事を実生活に「ほとんど生かしていない」と感じている。OPPシートを活用して、単元を通して視覚的に既習の内容をつなぎ、知識を習得できるようにした上で、単元の学習問題の答えを基にした問いと答えを作れるようにしたい。
C	社会科の学習は「どちらかというと嫌い」と感じている。また、社会科で学習した事を実生活に「ほとんど生かしていない」と感じている。OPPシートを活用して、単元を通して視覚的に既習の内容をつなぎ、知識を習得できるようにした上で、自身の知識を実生活に生かせるようにしていきたい。

4 評価規準

関心・意欲・態度	○森林資源の働きや、育成や保護の取組の様子に関心を持ち、意欲的に調べる。
思考・判断・表現	○森林資源の働きや、育成や保護の取組の様子について学習問題や予想、計画を作る。 ○森林が国土の安全を保つことや水資源の涵養などに重要な働きをしており、その保護や育成が大切であることや、森林資源を守るため、環境保全への国民一人一人の協力が必要であることを考え、適切に表現している。
観察・資料活用の技能	○森林資源の働きや、育成や保護の取組の様子について森林を観察・調査したり資料を活用したりして必要な情報を集める。 ○国土の安全を保つことや水資源の涵養に果たす森林資源の役割、森林の育成や保護に取り組む人々の工夫や努力を読み取ってまとめている。
知識・理解	○国土の安全を保つことや水資源の涵養のための森林資源の重要性を理解している。 ○森林資源の育成や保護に従事している人々の工夫や努力、環境保全のための国民一人一人の協力の必要性を理解している。

5 指導計画

注：・語句とは「社会科学習において、ぜひ習得させたい重要な基礎・基本」のこと。（北、2011）
・キーワードとは、単元の学習問題の答えに関連する用語のこと。

過程	各時間の学習活動と語句、キーワード	OPPシートの扱い
つかむ	○社会的事象と出会い、児童の驚きや疑問を基に単元の学習問題を作る。 ○単元の学習問題の答えを予想し、学習計画を立てる。	・毎時間、単元の学習問題を意識できる。
追究する	○森林には天然林、原生林、人工林の種類があることを理解する。 *語句：「森林率」「天然林と人工林」 *キーワード：「豊かな森林」 ○「白神山地」について調べ、天然林の様子について理解する。 *語句：「世界遺産」「白神山地」 *キーワード：「国土の安全を保つ」 ○「人工林」について調べ、林業に従事している人々の工夫や努力を理解する。 *語句：「林業」 *キーワード：「間伐材の利用」 ○「森林の利用」について調べ、森林資源は様々に利用されていることを理解する。	・OPPシートの「めあて」は、「～か」という「問い」の型にする。 ・「まとめ」が「めあて」の「答え」になるようにまとめる。 ・「まとめ」の中には、単元の学習問題の答えを作る際に活用できるようにキーワードを含ませる。

	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> * 語句：「防雪林」「防砂林」「防風林」 * キーワード：「木材を生み出す」 </div>	せるようにする。
まとめ	○単元の学習問題「森林には、どのような働きがあるだろうか」の答えをまとめる。 【日本の豊かな森林は、国土の安全を保ち、木材を生み出すなどの重要な働きがある】	・追究する過程の「まとめ」で使ったキーワードを活用して、答えを作る。
生かす	○単元の学習問題の答え【日本の豊かな森林は、国土の安全を保ち、木材を生み出すなどの重要な働きがある】から、自分にできそうなことをテーマに「問い」と「答え」を作る。(選択・判断する)(表3)	・前時までの記述をつなげて活用する。

表3 単元の学習問題を基に作られる「問い」と「答え」の例

使ったキーワード	「問い」	「答え」
豊かな森林	豊かな森林を守るために、どのようなことができますか。	植樹行事に参加したい。
国土の安全を保つ	国土の安全を保つために、どのようなことができますか。	世界自然遺産について詳しく調べてみたい。
木材を生み出す	木材を生み出すために、どのようなことができますか。	間伐材を使った割り箸を使いたい。

6 OPPシートの評価規準の例

OPPシートの記述に求める具体的な児童の姿の例と評価者の評価規準の例を表4に示した。

表4 OPPシートの記述に求める具体的な児童の姿の例と評価者の評価規準の例

段階	具体的な児童の姿の例	評価者の評価規準の例
A	問い：木材を生み出すために、どのようなことができますか。 答え：国産の間伐材を使った商品を使うように家族で相談する。	OPPシートを基に、単元の学習問題の答えから自分にできることの問いと答えを作り、具体的な計画を考えている。
B	問い：木材を生み出すために、どのようなことができますか。 答え：間伐材を使った割り箸を使いたい。	OPPシートを基に、単元の学習問題の答えから自分にできることの問いと答えを作っている。
C	学習問題の答えとは無関係の記述内容、無記述。	OPPシートを基に、単元の学習問題の答えから自分にできることの問いと答えが作れていない。

VI 研究の結果と考察

- 1 追究する過程において、OPPシートで、各時間の「まとめ」に含めたキーワード(図2下線部)を一目で確認できるようにしたことは、まとめる過程で、学習過程どうしをつなぎ、単元の学習問題の答えを作る上で有効だったか。

以下、図2に「抽出児童BのOPPシート」を示し、考察を行う。



図2 抽出児童Bが記述したOPPシート

注：図内の「め」は「めあて」、「き」は「気付き」、「ま」は「まとめ」、「ふ」は「振り返り」の略
 図2から以下の二点のことが分かる。

第一に追究する過程における「まとめ」が、各時間の「めあて」の問いに対する「答え」になっている。児童は、この「答え」を出すまでに、問題解決的な学習活動を通して、情報を収集したり比較したりして、単元の学習問題の答えを出すために必要な知識を習得したと考えられる。

第二に、矢印で示したとおり、追究する過程で発見したキーワードを「⑥まとめる過程」で単元の学習問題の答えを出すために活用している。具体的には、「⑥まとめる過程」において、児童は、「日本の豊かな森林は、国土の安全な場を保ち、木材を生み出す働きがある」と、単元の学習問題の答えをまとめた。この文中の「豊かな森林」は第2時、「国土の安全な場」は第3時、「木材を生み出す」は第5時の「まとめ」で使ったキーワードである。児童は、これらのキーワードの言葉をつなぎ、学習問題の答えを見いだした。つまり、まとめる過程で児童が作った「単元の学習問題の答え」は、追究する過程で習得した知識の中から発見したキーワードが活用されて、生かせる知識になっていると考えられる。なお、「④追究する過程3」のまとめでは、「間伐材の利用」について児童に紹介し、ここで習得した知識が、生かす過程につながり、児童が選択・判断する際に活用された。また、「各時間の『まとめ』と『まとめ』のつながりを意識できたのか」実践前と実践後にアンケート調査を行った。その結果を図3に示す。

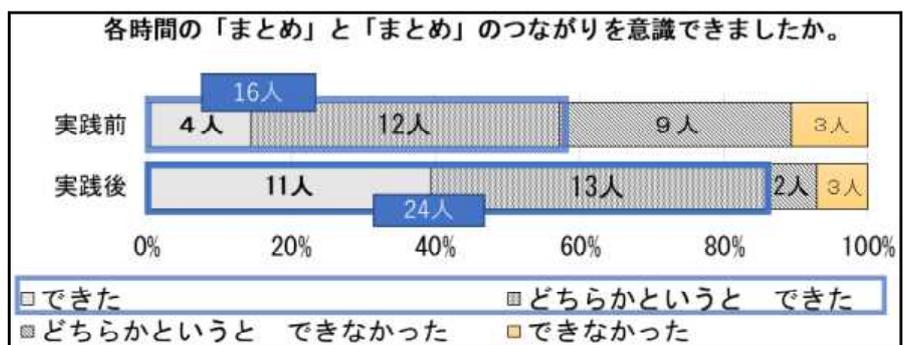


図3 アンケート結果の比較

図3から、OPPシートを使用したことで、「まとめ」どうしのつながりを意識できるようになった児童が、16人(4人+12人)から24人(11人+13人)に増えたことが分かる。OPPシートにより、「まとめ」と「まとめ」のつながりを一目で確認できるようになったことから「意識できる」と感じる児童が増えたと考えられる。

以上、図2と図3に示した結果から、追究する過程において、各時間の「まとめ」に含めたキーワードを、OPPシートで一目で確認できるようにしたことは、まとめる過程で、単元の学習問題の答えを作る上で有効だったと考えられる。

2 生かす過程において、OPPシートで、各単位時間で習得した知識のつながりを視覚的に確認できるようにしたことは、学習過程どうしをつなぎ、単元の学習問題の答えを基にした問いを作る上で有効だったか。

以下の図4において、抽出児童Bが、生かす過程で学習問題の答えを基にした問いを作るに当たり、どのように学習過程どうしをつないだのかを図内①から③で示し、考察する。

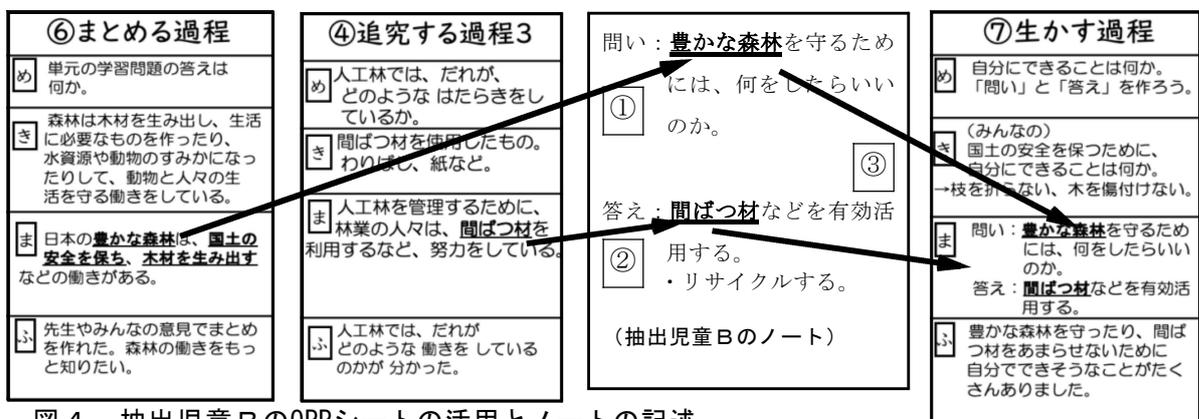


図4 抽出児童BのOPPシートの活用とノートの記述

①では、この児童が、まとめる過程で作った単元の学習問題の答え「日本の豊かな森林は～」の「豊かな森林」を用いて「問い」を作っていることを示した。②では、「答え」で使われている「間ばつ材」とは、「④追究する過程3」の「まとめ」に記述された「間ばつ材」が活用されていることを示している。③では、児童がノートに書いた「問い」に対して答えを二つ作った中から、OPPシートに答えを一つに絞ったことを示している。これは、教師の指示によるもので、児童には、「まず、ノートに問いと答えを作りましょう。二つ以上作れた人は、授業で初めて知ったことを優先してOPPシートに書きましょう」と伝えていた。この児童は、学習過程を以下のように「つないだ」と考察する。

第6時でまとめた「単元の学習問題の答え」と第4時の「追究する過程のまとめ」を、第7時の生かす過程につないだ。OPPシートを活用することで、これらの記述内容を視覚的につなげることができ、生かす過程において、学習過程どうしをつなぎ、学習問題の答えを基にした問いを作る際に、有効だったと考えられる。

次に、以下の図5において、抽出児童Aが、生かす過程で学習問題の答えを基にした問いを作るに当たり、どのように学習過程どうしをつないだのかを図内①から③で示し、考察する。

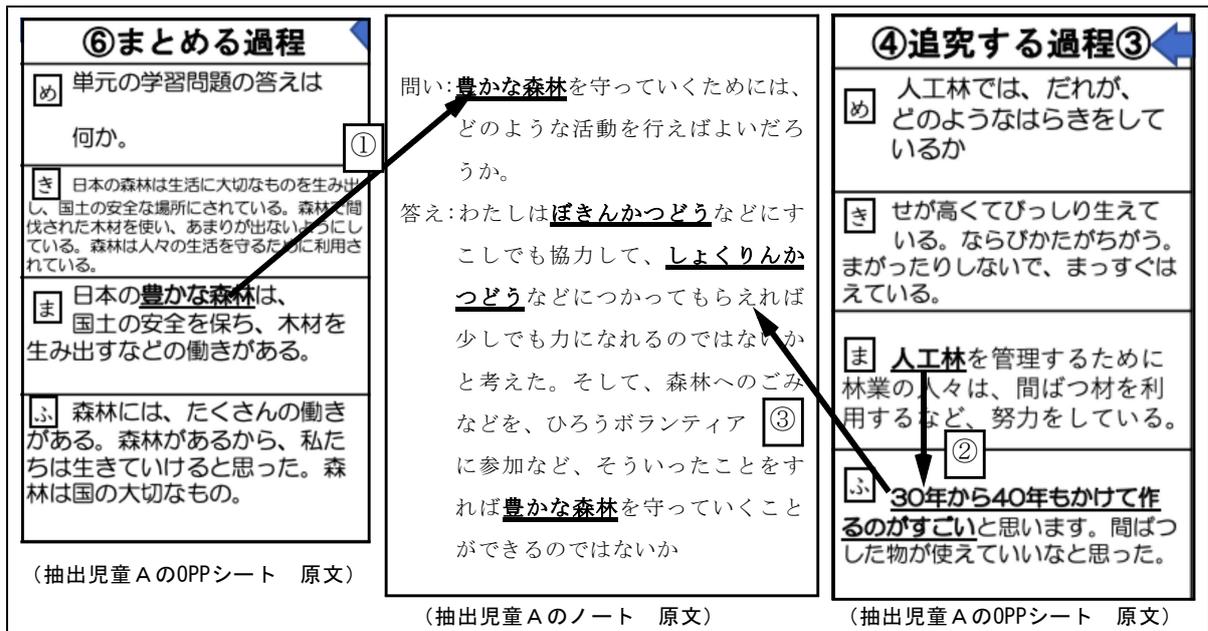


図5 抽出児童AのOPPシートの活用とノートの記述

図5の①でも、図4の①同様、まとめる過程で作った単元の学習問題の答え「日本の豊かな森林は～」の「豊かな森林」を用いて「問い」を作っていることを示した。

図5の②では、追究する過程（第4時）の「まとめ」で「人工林を管理するために林業に従事している人々が努力していること」について知識を習得したことを示した。さらに、③では、「振り返り」で「30年から40年かけて木を育てることのすごさ」を「しょくりん」という言葉を用いてノートに「答え」を作っていることを示した。

この児童は、自分の意見を発表する際に、次のように言葉を付け加えた。「植林活動には、すぐには参加できないけど、自分のお小遣いから植林活動に関わる募金をするのならできると思うので、募金をできる機会があれば、したいです」これは、上記の表4で示した「OPPシートの記述に求める具体的な児童の姿の例と評価者の評価規準の例」における、段階A「OPPシートを基に、学習問題の答えから自分にできることの問いと答えを作り具体的な計画を考えている」に当たると考えられる。

これらのことから、児童がOPPシートを基に「追究する過程」と「まとめる過程」をつなぎ、「学習問題の答えを基にした問い」を作ったと考えられる。

次に図6で、抽出児童Cのノートの記述とOPPシートの記述を示す。

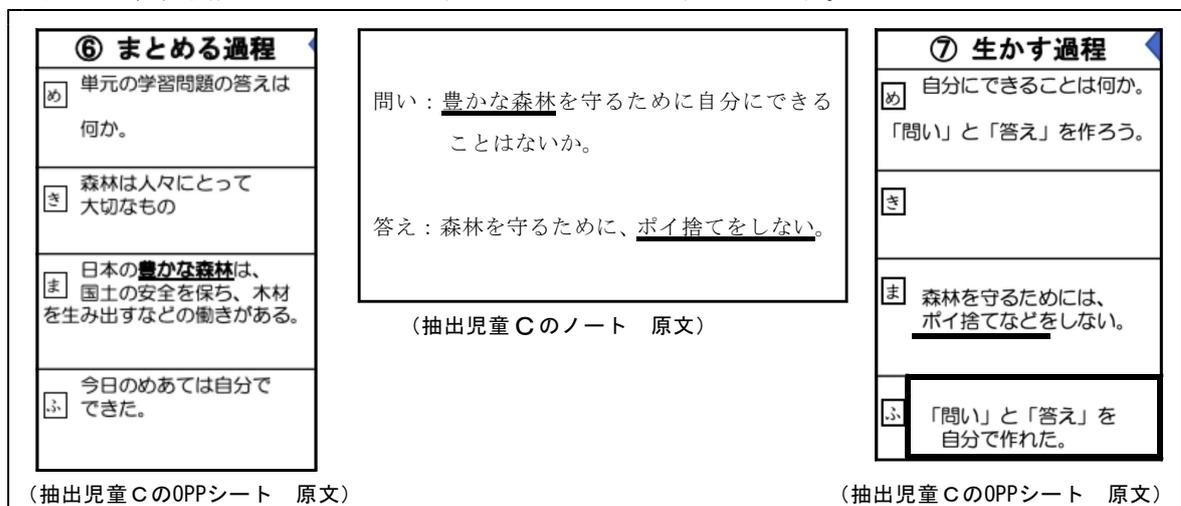


図6 抽出児童Cのノートの記述とOPPシート

本児童は、ノートに書いた「答え」の記述をOPPシートの「まとめ」に写している。「森林を守

るために、ポイ捨てをしない」の「ポイ捨てをしない」という記述は、授業実践前に「森林を守るために取り組むとよいことを知っていますか」というアンケートの回答と同じであり、授業後の変容が見られなかった。

つまり、この児童は、OPPシートを活用しきれなかったと考えられる。その理由をOPPシート(図7)から考察する。

OPP シート	① つかむ過程	① つかむ過程	② 追究する過程①	③ 追究する過程②
	ゆ 単元の学習問題を作る。	ゆ 単元の学習問題を予想し、 調べる計画を立てる	ゆ 森林には、どのような 種類があるのだろうか	ゆ 天然林で有名な「白神 山地」とは、どのようなところ か。
	き 日本は森と山が多い	き ①	き	き なぜ杉の木を切るのだら う
	ま 森林には、 どのような働きがあるか	ま 森林がないと、紙やノート ができない。虫や動物が生 きていけない。	ま 日本には 豊かな森林 が多 く、天然林、原生林、人工林の 種類がある。	ま 白神山地は世界いさん・フナ 林などの天然林は水しげん、動物 のすみかなど、 国土の安全な場所 だ。
	ふ 単元の学習問題を先生と 作れた	ふ 予想を自力で作れた。	ふ 森林にはいろいろな種類 があるとわかった。	ふ 白神山地がどんなとこ ろかじっさい いってみたい
	単元の学習問題 森林には、どのような働きがあるか			
	⑦ 生かす過程	⑥ まとめる過程	⑤ 追究する過程④	④ 追究する過程③
	ゆ 自分にできることは何か。 「問い」と「答え」を作ろう。	ゆ 単元の学習問題の答えは 何か。	ゆ 森林はどのように 利用されているのか	ゆ 人工林では、だれが、 どのようなはたらきをし ているか
	き ①	き 森林は人々にとって 大切なもの	き 森林は木材をうみだし、 いろいろなせいひんにし ていた	き 間ばつをしてひあたり をよくしている。
	ま 森林を守るためには、 ポイ捨てなどをしない。	ま 日本は豊かな森林は、 国土の安全を保ち、木材 を生み出すなどの働きがある。	ま 森林は木材を生み出し、 発電するために 、利用さ れている。 ②	ま 人工林をかんりするため に、りんぎょうの人々は、 間ばつ材を利用するなど、努 力をしている。
ふ 「問い」と「答え」を 自分で作れた。	ふ 今日のためは自分で できた。	ふ 木材はふだん使うもの になっている。	ふ 間ばつをすするとたすかる ③	

図7 抽出児童Cのノートの記述とOPPシート

①OPPシートの「気づき」に空欄が多いことから、本児童自身が学習に対して何らかのことを「気付かない」か「気付けない」のどちらかだろうと考えられる。②「まとめ」の内容を間違えている。本児童は、本来「いろいろな製品を作り、人々の生活を守るために」と記述する箇所を「発電するために」と記述している。③「間ばつするとたすかる」の記述からは、どのようなことが助かるのかが分からない。「①空欄、②誤った記述、③具体性の無さ」は、知識が習得されていないことの表れなのではないかと考えられる。

3 生かす過程において、OPPシートを基に学習問題の答えを基にした問いを作り、自分にできることを決めたことは、習得した知識を活用して、社会への関わり方を選択・判断できる児童を育成する上で有効だったか。

表4には、児童がノートに記述した「単元の学習問題の答えを基にした問い」と「答え」を示し、習得した知識を活用して、社会への関わり方を選択・判断している姿を考察する。

表4 児童がノートに記述した単元の学習問題の答えを基にした問いと答え

問い①	答え①
どうしたら日本の 豊かな森林 を守っていけるのか。	<u>間ばつされた木</u> で作られたわりばしや紙を使う。 <u>むだに、木を切らない。森林をこわさない。</u>
問い②	答え②
国土の安全 はどうしたら守れるか。	森林にはむだに立ち入らず、 <u>むやみに木を切らない。こわさない。</u>

児童は、ノートに二つの「問い①②」と「答え①②」を記述している。二つの「問い」でキー

ワード「豊かな森林」「国土の安全」を使用している。また、「問い①」の「答え①」には、「間ばつされた木」が用いられている。いずれも追究する過程で習得した知識をOPPシートから引用したことが分かる。注目すべきは、「どうしたら日本の豊かな森林を守っていけるのか」、「国土の安全はどうしたら守れるか」という別々の「問い①②」から「むだに木を切らない」「森林をこわさない」という同一の記述が見られる点である。これは、「問い」の設定の仕方が異なっても、「自分にできることは何か」という視点をもって児童が考えたので、児童の「答え」が同じ方向に向かっていることを示しているのではないかと考えられる。この児童はOPPシートを基に学習問題の答えを基にした問いを作り、自分にできることを決めている。このことから、習得した知識を活用して社会への関わり方を選択・判断できたと考えられる。

次に、表5に「児童に実施した選択・判断に関わるアンケートや評価の時期・形態・内容」を示し、図8・図9を用いて考察する。

表5 児童に実施した選択・判断に関わるアンケートや評価の時期・形態・内容

時期	形態	内容
実践前	アンケート 図9	○森林を守るために「知っていること」、「実践していること」が、ありますか。
実践中	OPPシート 図8	○「日本の豊かな森林は、国土の安全な場を保ち、木材を生み出す働きがある」を基に自分にできることを記述する。
実践 5日後	評価テスト 図8	○「日本の豊かな森林は、国土の安全な場を保ち、木材を生み出す働きがある」を基に自分にできることを記述する。
実践 3週間後	アンケート	○「単元の学習問題の答え」を基に決めた「自分にできること」について今実行していることがありますか。

以下、図8で、OPPシートの記述と実践5日後の評価テストの記述を比較する。なお、それらの評価規準を表6に示した。

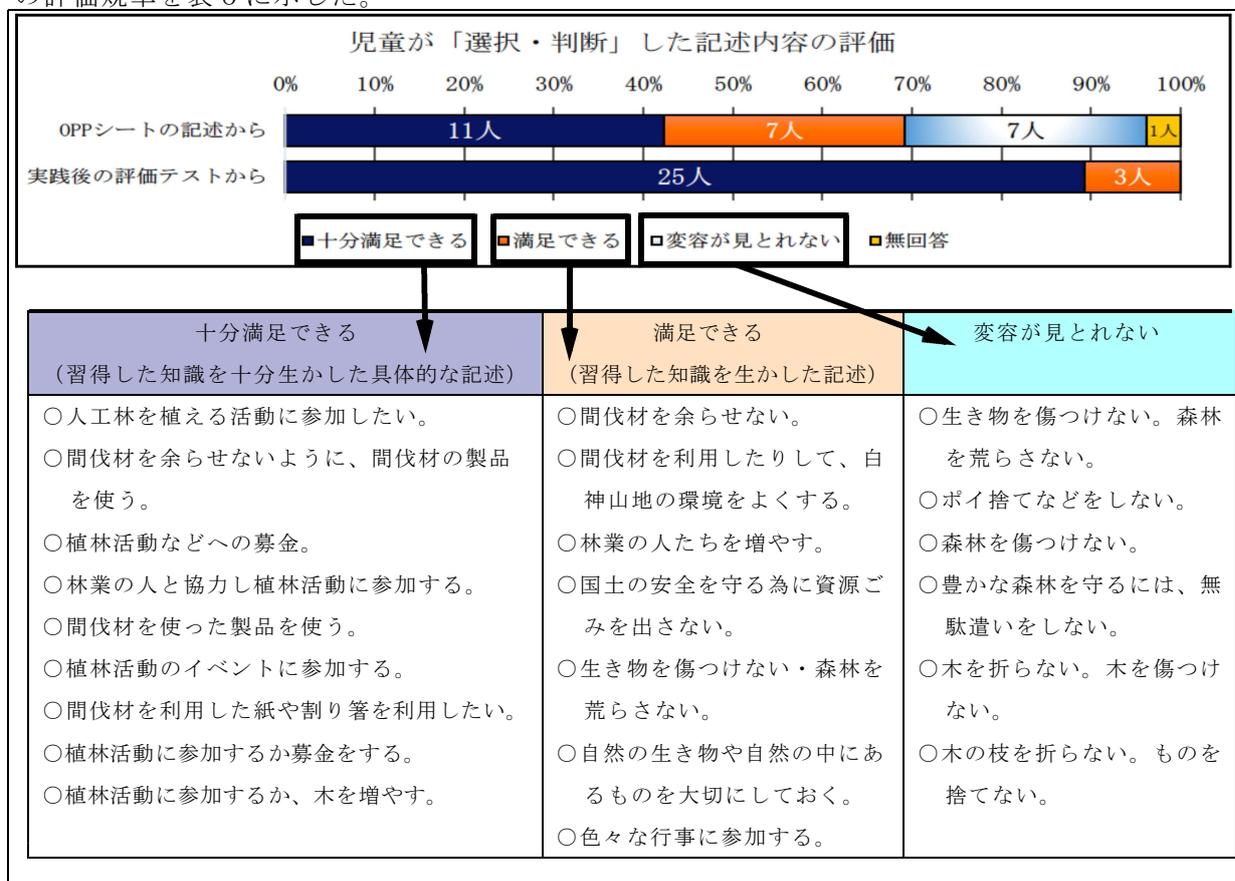


図8 児童が選択・判断したときの記述内容の変化と凡例の具体的な記述（一部抜粋）

評価テストの記述の方が「十分満足できる」記述が多かった。これは、第7時の「まとめ」での学級全体での共有を通して、友達がどのような視点で「選択・判断」したのかを知ったことで、自身の考えが強固なものになったからだと考えられる。つまり、ほとんどの児童が習得した知識を活用して社会への関わり方を選択・判断できていたと考えられる。

表6 図8で示した凡例の評価規準

凡例	内容
十分満足できる	・本単元で習得すべき語句やキーワードが、答えの箇所にて記述されており、児童が具体的に、どのように行動するかが読み取れる。
満足できる (習得した知識を生かした記述)	・本単元で習得すべき語句やキーワードが、答えの箇所にて記述されている。
変容が見とれない	・実践前に行ったアンケートで、「森林を守るためにするとよいことを知っている」と答えたときに記述した内容と実践後の記述を比較しても、本単元で習得すべき語句やキーワードが、答えの箇所にて記述されていない。

次に図9において、実践前と実践3週間後のアンケート結果を示し、考察する。

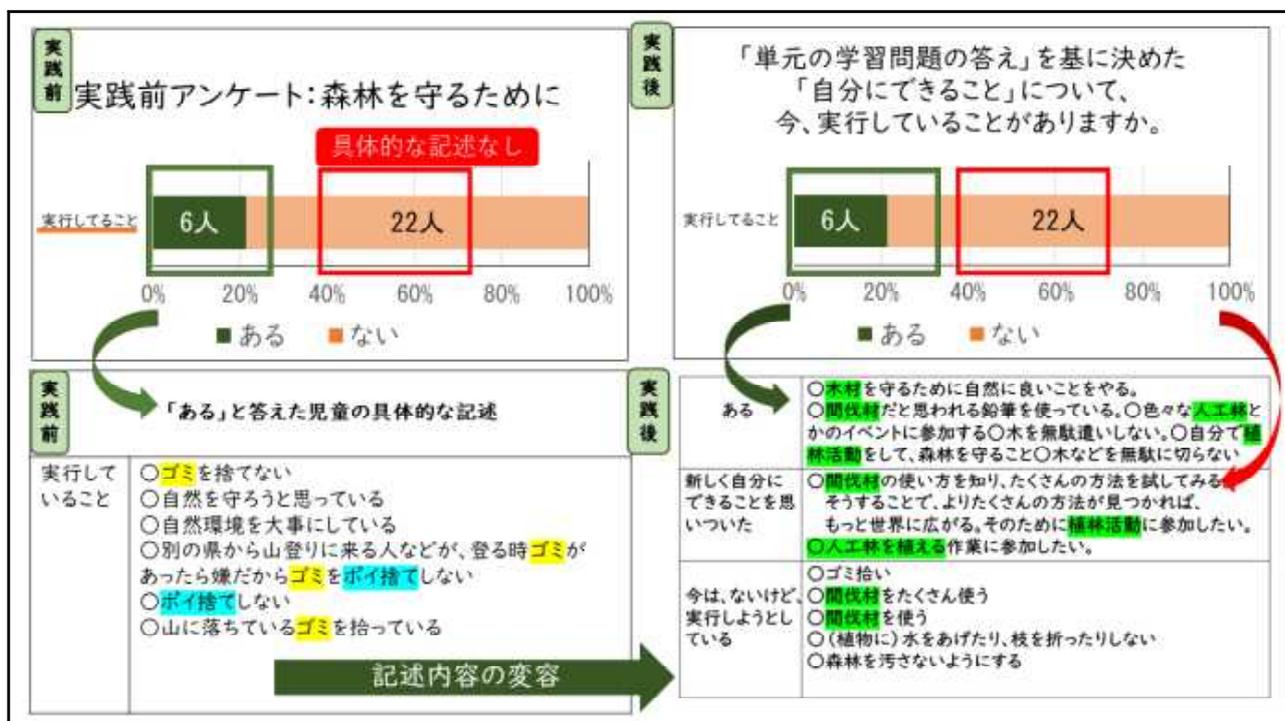


図9 実践前と実践後のアンケート結果

実践後のアンケート結果を見ると、「自分にできること」について、今、実行していることがあると答えた児童は6人、実行していない児童は22人となり、実践と同じ数値だった。しかし、アンケートの具体的な記述を比べると、実践前に「ある」と答えた児童の「ゴミ捨てをしない」「ポイ捨てをしない」というの記述内容が、実践後には「木材」「間伐材」「植林活動」などの語句を使った記述に変容した。また、実践前に「ない」と答えた児童は、それ以上の具体的な記述がなかったが、実践後の内容で「実行していることがある」と答えた児童には、「間伐材だと思われる鉛筆を使っている」等、記述内容が変化している。これらの記述内容の変化が、児童の意識の変容であり、社会への関わり方を選択判断している状態であると考えられる。実践を通して習得した知識を生かし、児童の実生活で生かそうとするための素養が身に付いたと考えられる。

上記のことから、生かす過程において、OPPシートを基に学習問題の答えを基にした問いを作り、自分にできることを決めたことは、習得した知識を活用して、社会への関わり方を選択・判断できる児童を育成する上で有効だったと考えられる。

Ⅶ 研究のまとめ

1 成果

学習過程どうしをつなぎ、学習問題の答えを基にした問いを作るためのOPPシートを活用することは、習得した知識を活用して社会への関わり方を選択・判断できる児童を育成するために以下の点において有効だった。

- (1) OPPシートを活用すると、つかむ過程で見いだした単元の学習問題を、全7時間を通して意識することができ、追究する過程・まとめる過程・生かす過程どうしをつなぐ上で効果的であった。特に、追究する過程（4時間）で見いだした「まとめ」どうしをつなぎ、まとめる過程において、単元の学習問題の答えを出すのに効果的である。よって、OPPシートを活用することにより、学習過程どうしをつなぐことができた。
- (2) OPPシートを活用すると、単元の学習問題の答えを基にした問いを作る際に、各時間において、どのようなことを習得したかという点で振り返りが容易なので、習得した知識を活用することができた。

2 課題

OPPシートから「空欄、誤った記述、具体性の無さ」を見取れる児童がいた。この児童は、OPPシートを取り入れても、習得した知識を活用して社会への関わり方を選択・判断するに至らなかった。そのため、指導者は、OPPシートの記述内容から、児童がどのくらい学習内容を理解し、知識を習得しているかを評価しながら、OPPシートを活用していく必要があると考える。

Ⅷ 提言

小学校社会科の学習において「選択・判断」が位置付けられている単元では、生かす過程において、OPPシートを基に学習問題の答えを基にした問いを作り、自分にできることを決めることが有効である。また、本研究を通して、検証されたOPPシートの有効性は、他教科においても児童が単元を通して「何を学び」「どのような知識が身に付いたか」を振り返る際に活用できると考える。

<参考文献>

- ・幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）（平成28年12月21日）
- ・文部科学省 『小学校学習指導要領解説社会編』（2018）
- ・群馬県教育委員会 『はばたく群馬の指導プランⅡ』（2019）
- ・群馬県教育委員会 『群馬県第3期教育振興基本計画』（2019）
- ・北 俊夫 著 『社会科学力をつくる“知識の構造図”－“何が本質か”が見えてくる教材研究のヒント』 明治図書（2011）
- ・北 俊夫 著 『「思考力・判断力・表現力」を鍛える新社会科の指導と評価 見方・考え方を身につける授業ナビゲート』 明治図書（2017）
- ・北 俊夫 著 『「主体的・対話的で深い学び」を実現する社会科授業づくり』 明治図書（2018）
- ・佐藤 浩一 編著 『学習の支援と教育評価 理論と実践の協同』 北大路書房（2013）
- ・社会科教育1月号・705号 明治図書（2018）
- ・西岡 加名恵 石井 英真 [編著] 『教科の「深い学び」を実現するパフォーマンス評価「見方・考え方」をどう育てるか』 日本標準（2019）

<担当指導主事>

金子 百合子 阿左見 充良 阿由葉 恭代